

審査の結果の要旨

氏名 中井 陽介

本研究は、悪性胆道閉塞に対する covered metallic stent の有用性を明らかにする目的で行われた、市販の Covered Wallstent の多施設共同前向き研究であり、切除不能悪性胆道閉塞 69 例における Covered Wallstent の成績を、閉塞率、開存期間、合併症についての検討を行い、下記の結果を得ている。

1. Covered Wallstent の閉塞率は 10.1%と、これまでの uncovered metallic stent の報告と比較して低く、累積開存率は、3 ヶ月、6 ヶ月、12 ヶ月でそれぞれ 93.9%、87.8%、82.7%であった。特に tumor ingrowth による stent 閉塞は認めず、silicone による cover の有用性が示された。

2. stent 閉塞以外の合併症は、全体で 34.8%と高率に認めた。ステント留置位置不適例 10.1%、胆管炎 7.2%、ステント逸脱 5.8%、胆嚢炎 5.8%、膵炎 5.8%に認めた。ステント逸脱を多く認めたのは、ステント留置後の短縮率が大きいためと考えられた。ステントの真っ直ぐになろうとする力が強いために、胆管とステントが kink してしまい胆管炎を合併した症例を認めた。また、胆嚢管への癌浸潤を有する症例は胆嚢炎の、主膵管の癌浸潤のない症例は膵炎の高危険群であった。

3. 以前に使用していた自作の covered metallic stent である polyurethane-covered Diamond stent との比較では、閉塞率は同等であったのに対して、開存期間は短く、合併症が多い傾向を認めた。これは Covered Wallstent の特性である強い拡張力、真っ直ぐになろうとする力、大きな短縮率によるものであると推察された。

以上、本論文は悪性胆道閉塞に対する内視鏡的治療を中心とした covered metallic stent の有用性を明らかにした。covered metallic stent の特性による合併症の違いについての検討を行い、今後の悪性胆道閉塞に対する治療法の向上に貢献すると考えられ、学位授与に値するものと考えられる。